

# 楽典和声講座 演習問題 #03 スケール

※今回は問題の都合上、各章のサブタイトルを隠しています。

また、移動ドとの対応のため主音はC（短音階はA）に固定し、音名はすべてイタリア音名とします。

## 1. スケールとは？

◆次の文章はスケールについて述べたものである。空欄を埋め、選択肢は適切なものを丸で囲め。

スケールとは、（ 主音 ・ 根音 ）と呼ばれる「はじめの音」から、その（ 5度 ・ オクターブ ）上の音までをどのように分けるか、という規則である。言い換えると、スケールは音の（ 長さ ・ 幅 ）の積み重ねである。一つの曲の中の和音やメロディは、原則として一貫したあるスケールを基に作られており、たとえば「さくらさくら」などの近世邦楽で用いられているのは（ 都節 ・ 民謡 ）音階であり、この音階を含む日本特有の音階の多くが（ ）つの音からなる。このように、スケールが音楽の雰囲気を決め、地域や時代を特徴づけるのである。

## 2. 長音階

◆次の文章は長音階について述べたものである。空欄を埋め、選択肢は適切なものを丸で囲め。

長音階とは、西洋音楽でよく用いられる（ 明るい ・ 暗い ）音階である。イタリア音名で言い表すなら、言わずと知れた（ ）のことであり、全音を全、半音を半で言い表すなら、音の幅は（ ）となる。

## 3. 自然短音階

◆次の文章は自然短音階について述べたものである。空欄を埋め、選択肢は適切なものを丸で囲め。

自然短音階とは、西洋音楽でよく用いられる（ 明るい ・ 暗い ）音階である。イタリア音名で言い表すなら、（ ）となる。一見すると、長音階と使っている鍵盤が同じなので、同じスケールではないかと思ってしまうが、「はじめの音」が（ ）であるので、全音を全、半音を半で言い表すなら、音の幅は（ ）となり、たとえ同じ鍵盤を使っている、実際は異なるスケールであることがわかる。

## 4. 和声的短音階

◆次の文章は和声的短音階について述べたものである。空欄を埋め、選択肢は適切なものを丸で囲め。

自然短音階には一つ問題点がある。それは「はじめの音」に向かうための音である（ 属音 ・ 導音 ）が、うまく機能しない点である。そのため、（ ）の音を半音（ 上げて ・ 下げて ）対応したものが和声的短音階である。この音階は主に（ 和音 ・ メロディ ）を作るのに使われている。

## 5. 旋律的短音階

◆次の文章は旋律的短音階について述べたものである。空欄を埋め、選択肢は適切なものを丸で囲め。

和声的短音階にも一つ問題点がある。それはファからソ#までの幅が半音（ ）つ分と広く、メロディの中で落差となって不自然さをもたらす点である。そのため、さらに（ ）の音を半音（ 上げて ・ 下げて ）対応したものが旋律的短音階である。この音階は主に（ 和音 ・ メロディ ）を作るのに使われている。

## Hint. ピアノの鍵盤

